

長田の始まり

名嘉真 光子 (1920・T9) 字長田 (00 : 32)

^{ながた}長田は、^{むかし}昔はよ、^{ぶらく}部落はなくて^{やま}山さあね。

^{すい}首里のあのう、^{はいぼん}廃藩なていから、ありからるあぬー、
^{すい}首里からぬ ^{さむれー}侍 ^{ちゃー}ぬ ^{ちゅいちゅい}達 が一人一人めんそーやーにか
^{かいこん}い開墾あきてい、あのぐらいの字になったらしい。

あんすぐとう、^{せんぜん}戦前、^{でいき}いっぺー出来やー^{たー}達がまん
どーたるばー。^{すい}首里からぬ人達ぬ、^{しんか}自分なー^{どー}祖父母ぐ
^{ものし}らいまでーよー、^{ちゃー}すごく物知りぬ ^{あぎ}達がまんどーたん。

【共通語訳】

その昔、長田という集落はなくて、そこは山ばかり
だった。

廃藩置県後に首里から田舎下りした士族が、そこを
開墾して集落ができたそう。

それで、戦前はとても教養のある人が多かったよう
だ。士族が移り住んでいるからね、私の祖父母の世代
には、すごく物知りな人たちがたくさんいた。